

Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは……………

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまずきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGE は……………

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001 年 10 月に認証・設立され、活動しています。

ディスレクシアと支援機器

石川県立明和特別支援学校 教諭 河野 俊寛

ディスレクシアは、日本語にすると「読み書き障害」であるため、文字が読めない書けない障害であるというイメージがある。しかし、まったく読めないわけではないし、まったく書けないわけでもない。ディスレクシアは、正確に、流ちょうに読み書きできない障害である。

この症状が支援を難しくしている。というのは、読み書きへの支援をすると、読み書きの技能が少しは改善する。そのため、特に小学校の時は、読めるようにしよう、書けるようにしようという支援が中心になり、本人に過剰な努力を強いる結果になっていることがある。もちろん、読み書きの正確さはある程度改善するので、読み書きへの直接的なアプローチは必要である。しかし、そもそも学習の目的は、文字の読み書きではなく、知識を習得し、知識を使って考え、自分の考えを第三者に伝えることができるようになることではない

だろうか。だとすると、ディスレクシアの人も同じ目的で学習すべきであって、いつまでも文字の読み書き学習ばかりしていると、知識は増えず、考えることのトレーニングも疎かになってしまう。

では、文字の読み書きに困難があっても学習するにはどうすればいいのだろうか。そこに支援機器の役割がある。読み書きの困難さを支援機器で補助・代替することによって、文章内容へ楽にアクセスできるようになり、自分の考えを楽に文章としてアウトプットできるようになる。読みの補助として、文章をパソコンに読み上げさせることは簡単にできる。スキャナーで読みたい文章を、PDF ファイルあるいはテキストファイルとして取り込むと、日本語エンジンがインストールしてあるパソコンならば、そのまま読み上げさせることができる。書きの補助としてはキーボードがある。ディスレクシアの人が苦勞している音と文字

クラスで気になる子の支援 ズバツと解決ファイル

達人と学ぶ! 特別支援教育・教育相談のコツ

阿部利彦 編著 四六判・208頁・定価1,785円

クラスの中にいる様々な「気になる子」。その理解の仕方や支援の方略を、それぞれの分野の「達人」たちがわかりやすく紹介。特別支援教育だけでなく、教育相談・生徒指導などにも活用できる1冊。

Information

本書の続編となる「ズバツと解決ファイル NEXT LEVEL」が、月刊誌「児童心理」2011年4月号(3月12日発売)より連載開始! ブログ連載「電ズバ」も鋭意連載中。www.denzuba.comにアクセス!

〒112-0012東京都文京区大塚 3-3-7



金子書房

☎ 03-3941-0111(代) FAX 03-3941-0163
URL http://www.kanekoshobo.co.jp

目次

- P1 ディスレクシアと支援機器
- P2 Personal Story 「DX 的な就労 : F 氏」
- P3 WAM と DX 会報告
- P4 LSA 特集 / 新刊本紹介
- P5 民間資格 / 2011 年エッジ事業計画
- P6 使いやすい教科書 / 大学入試と入学後のサポート
- P7 インターネットラジオ / 館野ウィーク / 訂正のおわび
- P8 絵はがき / ご寄付の御礼 / 予告 / 活動紹介

の一致の自動化は、キーボードを使うことによって、音と指の運動の自動化でその困難さを代替することができる。音声入力ソフトも、以前に比較してその精度は上がっている。私の知っているディスレクシアの小学生は、スマートフォン用の音声入力メールソフトを使って、夏休みの1行日記を作った。

支援機器を使うことによって、文字の読み書き

の困難を回避して、本来使うべき学習にエネルギーを使えるようになる。支援機器を活用し、楽に勉強することを目指すべきではないだろうか。



Personal Story DX的な就労：F氏インタビュー

はじめに

エッジでは、この二年間、WAM(福祉医療機構)からの助成金を使って、ディスレクシアを持つ成人の就労支援を全12回のワークショップを通して行ってきました。これから一年、一連のワークショップに参加したディスレクシアでありながら、社会で活躍している方々にお話をうかがいます。第一弾は食品会社勤務のF氏です。

就労事業の実行委員で、障害者枠で就労のF氏に話していただきました。

1) 現在の職場で、どんな仕事が好きですか。

私は食品関係の会社に勤めているんですが、調査と試験が一番楽しいことです。他社のリサーチ、農業の新しい技術を研究し、ハーブの新しい栽培を行います。パセリ、ミントのように季節性の植物ですが、一年中安定して供給する栽培方法等の研究です。

2) 就労事業のワークショップに参加されているうちに、気がついたことがありましたか。

自動車免許の話のとき、左右を混乱したり、距離感がつかめなかったり、標識を認識できない等は、自分だけではないとわかりました。劣等感を持っていましたが、みんなの話を聞いたら、気分が楽になり、プラス思考になりました。

3) どんなワークショップが有意義でしたか。

東大の先端研の人々が持ってきた、いろいろなツールを実際に触れてみたことがよかったです。

いろいろな機材を試してみて、自分に合っているものを探したのは有意義でした。できれば、もう一度やってみたいですね。

4) プラス思考が就労にどのように役立っていますか。

好きな仕事をしていましたが、あるきっかけで挫折して、落ち込んでいました。WAMとDX会のワークショップに参加し、みんなで、同じことを考える機会があり、すごく共感を持ちました。特に、「楽しかったときを思い出す」ワークが自分の自信を取り戻すのに大きな後押しになりました。

5) 今後、ディスレクシア的な就労を継続するにはどうしたらいいでしょうか。

他の社員に追いつかなければならないという焦りがありました。本来の自分の能力以上の仕事を受けていたのです。今の職場では自分の苦手な点を公開しているので、周囲が無理のないように調節してくれています。できないことも素直に言うようになりました。温厚な上司の下だと、できないところがあっても、できるところがあるから、見逃してくれていました。ただ、上司が変わって、体育会系だと、なかなか理解してもらえず苦勞しました。現在は問題なく仕事を続けています。

(文責：柴田)



第4～5回成人ディスレクシア就労事業ワークショップ

【第4回】

2010年10月3日(日)、第32回DX会&4回成人DX事業ワークショップは18人(男11名、女7名)で行われました。今回は東大先端技術研究センター(3人の講師)とソフトバンク(関係者一人)のご協力で、最新の技術に触れる企画でした。前半は河野俊寛講師による「読み書き困難への支援ツール」の講演があり、まずディスレクシアの人々の長所を解説しました。その後、iPadユーザーの実行委員二人が日常の使用例を発表しました。

後半は机で3つのコーナーを作りました。それぞれ「iPhoneとiPad」、「支援機器」、「読み書きソフト」のコーナーとして、各機器に触れ、就労で役立てる方法を考えました。「iPhone」を実際使ってみると、その性能に驚きました。計算式が

残るソフトは計算ミスの場所がわかり、便利でした。「iPad」はタッチパネルで大きな画面が使えるので、画面を横から縦にすると変わる機能は使いやすい、特に写真の整理には便利です。「読み書きソフト」のコーナーで、スキャナーの読み込み機能の進化は感動的でした。読み取り率は高く、校正が楽になります。最後に「支援機器」のコーナーで、カラーシートを使って、文字の見やすさの検査をしました。見やすさの色は人それぞれで、微妙に違いました。

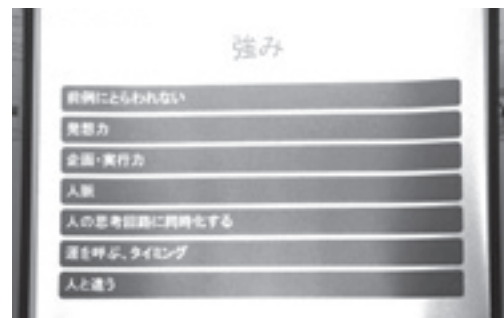


【第5回】

12月12日(日)、第33回DX会&成人DX事業ワークショップは21人(男13名、女8名)の出席で、行われました。今回の就労ワークショップは「起業と企業」の話でした。

最初に、当事者の砂長さんが「ケータリング弁当店」を2011年2月から起業する報告があり、一同歓声が上がりました。まずは人材派遣会社を経営されているI女史とNPO EDGEの藤堂さんから起業までの経緯と業務内容が説明されました。お二人の話からは、ひたむきな情熱が伝わってきて、身体が熱くなる思いでした。こんな方々を応援していきたい、と再認識させられました。当事者の質問は実際に体験した話に集中しました。自分の情熱に賛同する人を探し、協力してもらって、夢を実現させる話は盛り上がりました。雇用ではなく、仕事を作り出すのも一つの選択肢です。

後半は企業の人事の採用担当者、ディスレク



シア当事者の就職困難さを考えました。企業側の人事担当者と当事者6人がプレゼンテーションをし、模擬面談をしました。視覚障害者にIT機器を販売する会社社長A氏とIT企業人事のD氏の前で、6人が自分の職業体験から、自分の長所、短所を把握し、自分の強みを客観的に語る姿は成長の証でした。採用基準で印象的だったのが、「職場を明るくする人」、「自分の長所と短所を説明できる人」という点でした。エネルギーを次回の例会にもリレーしていきたいものです。

(文責：柴田)

LSA (学習支援員特集)

エッジでは日本財団からの助成金を活用して港区で効果をあげている学習支援員制度を各地に広める活動を繰り返し広げています。

各地での動きをご報告いたします。

名古屋：フォローアップ講座と支援員育成講座の中で保護者の話や港区での実践の話。

明石：フォローアップ講座と支援員育成講座の中で保護者の話や港区の実践の話。

宮崎：フォローアップ講座とLD疑似体験が自分たちでできるように研修。

川越：フォローアップ講座と教育センターの方たちの研修。

フォローアップ講座は実際に支援に入っている支援員からリクエストが出された事例検討が主で

す。それぞれの地域で港区と同様に支援員育成講座が開かれるようになりました。自治体によって、すでに学習支援員を配置しているところもあります。川越などは10年前からシステムは出来ていますが、その後勉強してから支援に入るという形がなくなってしまっていました。名古屋、明石はそれぞれのNPOが尽力していくつかの学校に支援員に入っていますが、まだ、システムとして支援員の活用にまでは至っていません。宮崎は星槎教育研究所と共催する民間資格を受講する形で支援員の育成を進めようとしています。港区でもそうでしたが、各地の実状にあわせ、このような形で一つ一つ実績を積んでいくことが、一人ひとりの児童生徒への適切な支援につながっていくものと信じています。

学習支援員のいる教室

～通常の学級でナチュラルサポートを

藤堂 栄子 編

『学習支援員のいる教室～通常の学級でナチュラルサポートを』藤堂栄子編、港区個別支援室の相談員、支援員などが共著、発行ぶどう社の出版記念を行いました。学習支援員制度がなぜ作られたのか、実際に入ったケースなどに

ついて具体的な支援方法なども含めて一冊の本にまとめました。医療でも福祉でもない、学校の教師でもない人が、いかに発達障害を持つ人を支援し、自立する手伝いができるか、ということが著されています。

学習支援員のいる教室

通常の学級で 本体1800円+税
ナチュラルサポートを
Learning Support Assistant
藤堂 栄子 編著



どんなふうに支援するのか、現場からイキイキと伝える。支援員のすべてがわかる！

ディスレクシアでも大丈夫！

読み書きの困難と
ステキな可能性

藤堂 栄子 著 本体1600円+税

NPO 法人エッジが、日本で初めて、東京都港区の教育委員と協働で創り出した「学習支援員制度」。見事なシステムです。本書には、育てたい学習支援員への思い、養成プログラムの開発、小中学校での実践事例、行政との連携のあり方など、必要なことは全て書き込まれています。

柘植雅義

(国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員)

民間資格

学習支援員が効果的に動くためには教育委員会とも連携をとりながら、適切な支援を見極め、支援計画を基に進めることが理想的です。また、支援に入る前に発達障害についての基礎的な理解、実践的かつ具体的な支援法、支援員としての心構えなどの研修を受けるなどの準備が必要です。現実的には何も知らないまま『支援員』や『介助員』として入っている方も少なくありません。これではせっかく人が配置されても効果が上がるどころか逆効果になることさえあります。

そこで、私たちエッジでは星槎教育研究所と共催で民間資格の『学習支援員』育成講座の開催をいたしました。それにさきがけ1月22日横浜YWCAにて杉並区の済美教育センターの月森久江特任教授に『教室で出来る具体的サ

ポート～特性に応じた支援とは』についてご講演をいただきました。一般の方も含め80名以上が参加しました。今回は横浜会場をメインの会場として、宮崎とテレビ会議方式でつなぎました。星槎グループが持つインフラやノウハウとエッジの持つ学習支援員養成講座のドッキングで一人でも多くの児童生徒が適切な支援が受けられるよう、支援できる人の育成を各地の実情にあった形で提供します。例えば共通に学べる概論などは同じ育成講座の枠内でおこない、教育委員会、保護者のお話などは各地でじかに聞けるような形を取っています。

今後は川崎市をはじめとして、すでに支援に入っている方たちが受講しやすい時間帯での研修を企画いたします。

エッジの 2011年 事業計画

これまでの活動に加え

- 『ディスレクシアを持つ日本人と英語』
- 『成人ディスレクシアの就労』
- 『学習支援員制度の普及』

以上の三つをテーマに展開していくつもりです。
尚一層のご支援を賜りますようお願いいたします。



使いやすい教科書 についての調査研究

現在エッジでは文部科学省の「発達障害等に対応した教材等の在り方に関する調査研究事業」委託を受けて筑波大学の宇野准教授と

研究を行なっています。発達障害を持つ児童生徒には学校で渡される教科書の音声化などが認められるようになりました。

この研究は以下の内容を含みます。

- 1) 安価で、質のよい音声化教科書の作成が迅速にできるプログラムの構築をし、その使い勝手についての調査研究
- 2) それを発達障害の児童生徒に使用してもらい使い勝手と効果についての調査研究
- 3) 通常の学級内で使用してもらい使い勝手と効果についての調査研究

現在、関東内3都市の3校と二つのNPOで約600名の児童生徒への調査が進んでいます。

大学入試と入ってからのサポート

初めて発達障害への配慮がなされる記念すべき大学入試センター試験が、1月14日、15日に開催されました。入試センターではこれまで身体障害や盲聾の方たちへの配慮はされてきました。今回のセンター試験はその範囲を発達障害、とりわけディスレクシアにも広げたものです。私たちエッジの開催するキッズ&ティーンズクラブに参加していたK君も、自分でいろいろと準備してセンター試験に挑みました。受けた配慮は1) 時間延長、2) 別室受験、3) 文字の拡大、4) 問題用紙のチェックの四点です。別室がトイレに近く、他の受験生が休み時間にトイレに行くざわめきが多少気になったことはあったそうですが、配慮を受けることが出来たのは大きな前進です。

また、配慮が進んでいるのはセンター試験だけではありません。大学側の対応としても、慶應義塾大学のいくつかの学部や明治学院大学、明星大学などでは学生サポートセンターの機能として発達障害を持つ生徒への支援を始めています。受験をするときから、その旨をしっかりと伝えたほうが、的確な支援が出来るというお話です。



インターネットラジオ

インターネットラジオ「DXステーション」は3年目を迎え、ますます充実してきました。福祉医療機構の助成金で行われている成人ディスレクシア就労事業のワークショップやキッズアンドティーンズのデイキャンプの様子を収録して、放送しています。最初はDX会の余興で年に三回ほど作っていました。ところが作っていくうちに、

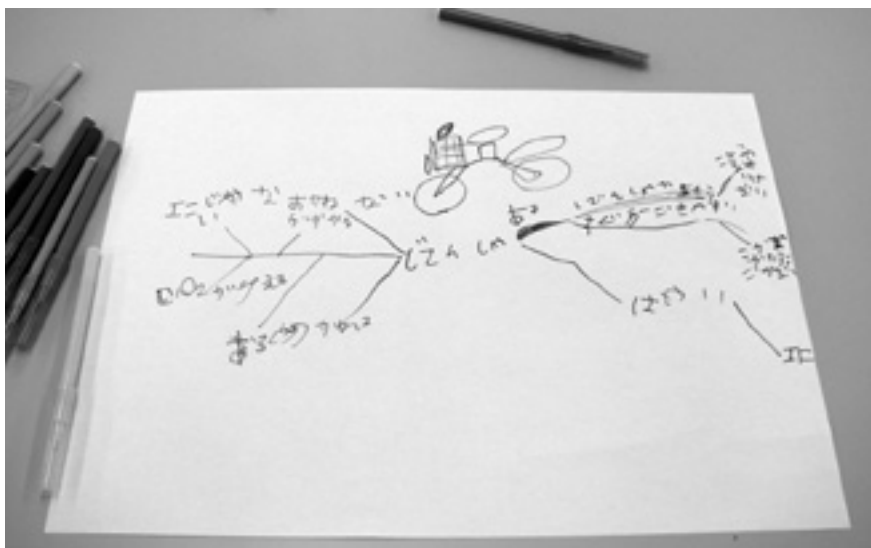
リスナーが増えてきました。ゴスペルシンガー鬼無宣寿（きなしのぶひさ）さんのご協力で、番組にBGMを付けることができました。昨年はお陰さまで、最低月に一回、新番組を制作できました。本年もそのつもりで、担当者も気合を入れております。どうぞ皆様、お楽しみに。

http://www.voiceblog.jp/dx_station/

館野ウィーク

イギリスの高等教育でディスレクシアの学生を支援されている館野智恵子さんが帰国した際、二つの講座をお願いしました。2010年11月6日、キッズアンドティーンズのワークショップが行われました。12名の小中学生が集まり、マインドマップ制作を教わりました。始めは少しとまどっていた子どもたちも、クレヨンを使って実際に作ってみると、だんだん夢中になって行く姿が印

象的でした。11月12日の保護者向けディスレクシア講座は11人の父兄が参加しました。子どもたちが持っている困難を学校にどう伝えるか、どうしたら自信を持たせられるか、について活発な意見交換がありました。普段はなかなか相談できない悩みを話せる機会を得て、館野さんのアドバイスを受け、有意義な時間を共有できました。



訂正

ニュースレター 23号、24号のP1に掲載されました「ワールドディスレクシアフォーラム」で作者の館野 智恵子さんの「館野」は「館野」の誤りでした。



Mackenzie
Thorpe

絵はがき

マッケンジー・ソープ氏の絵はがきシリーズ5弾が
出ました。

ちょっとしたプレゼント、お部屋のアクセント、大
事な方へ一言を添えてとご活用ください。

12枚入り ¥1,000- (税別)

ご協力・ご寄付ありがとうございます

英国大使館におけるパーティー、パーティー参加者の方たち、協賛くださった企業の皆様
2011年版マッケンジー・ソープ氏カレンダー 1000本を越える売り上げとなりました。



予 告

マッケンジー・ソープの世界展

場 所：奈良県文化会館 展示室 D
奈良市登大路町 6-2

T E L : 0742-23-8921

日 時：2011年4月6日(水)～17日(日)

時 間：AM9:00～PM6:00

※休館日は11日(月)

画家来館：4月10日 PM1:00～PM2:00

ディスレクシアの人の就労発表会

福祉医療機構の助成金で行なったディスレク
シアの人の就労についてのワークショップを
通じて見えたこと

講 師：ディスレクシア当事者6名

場 所：港区地域活動室 港区浜松町

日 時：2011年3月27日(日)

2時から5時半

お 申 込：edgewebinfo@npo-edge.jp

最近の活動紹介

10月21日 大田区(講演)
10月24日 臨床心理士会(講演)
10月25日 品川区(講演)
10月29～30日 日本財団：川越LSA講座
11月5日 宮崎(講演)
11月6日 キッズアンドティーンズデイキャンプ
(講師：館野智恵子)/理事会
11月12日 保護者向けディスレクシア講座
11月13日 FU研修「事例研究会3」
11月13日 日本財団：四日市LSA講座
11月20～21日 日本財団：宮崎LSA講座
11月27日 葛飾区(WS講演)
11月28日 WAM第6回準備委員会
11月30日 横浜市PTA(講演)
12月5日 JDD年次大会(神戸)
12月12日 第33回DX会(第5回WAMワークショップ)
12月23日 FU研修「トータルな視機能の調整」川端秀仁
2011年
1月11日 港区LSA養成講座開講

1月22日 LSA養成講座：一般向け(横浜)開講
2月6日 WAM第7回準備委員会
2月20日 第34回DX会(第6回WAMワークショップ)
2月27日 エッジ総会

Report from the EDGE - 第25号 -

2011年2月25日発行

発 行 者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子

東京都港区浜松町1-20-2 村瀬ビル3F

Tel. 03-6240-0670・0672

Fax. 03-6240-0671

編 集 NPO法人EDGE 事務局 柴田章弘

印 刷 株式会社 信英堂

http://www.npo-edge.jp

http://blog.livedoor.jp/npo_edge/

E-mail: edgewebinfo@npo-edge.jp